

古今著聞集（小式部内侍が大江山の歌の事）

一傍線部の語句の読みをひらがな（現代仮名遣い）で記せ。

- ①丹後に下りけるほどに、 [2点×3]
- ②局の前を過ぎられけるを、 []
- ③御簾よりなかなば出いでて、 []

②局の前を過ぎられけるを、

③袖をひきはなちて逃にげられにけり。 []

④歌よみの世おぼえ出いで来にけり。 []

二傍線部の語句の意味を後から選べ。

[2点×4]

四傍線部の助動詞の意味をa～dから選べ。同じ記号を何度選んでもよい。

①直衣なほしの袖をひかへて、 []

[2点×3]

- ア 遠慮がちに振って。
- イ 押さえて引き止めて。
- ウ 見えないようにしまつて。

- a 自発 b 可能
- c 受身 d 尊敬

②思はずにあさましくて、 []

①小式部内侍こしきぶの内のし、歌よみにとられてよみけるを、 []

1

- ア 無意識に。
- イ 思いがけないことで。
- ウ 気に入らないと思つて。

②局の前を過ぎられけるを、 []

③袖をひきはなちて逃にげられにけり。 []

③あさましくて、「はいかに。」とばかり言ひて、 []

五次の中から『古今著聞集』の編者を選べ。

[2点×1]

- ア 情けなくて。
- イ 驚きあきれて。
- ウ みつともないことと思つて。
- ④歌よみの世おぼえ出いで来にけり。 []
- ア 主上の寵愛。
- イ 前世の記憶。
- ウ 世間の評判。

- ア 藤原公任ふじわらのきんとう
- イ 源俊頼みなもとのとしより
- ウ 橘成季たちばなのなりすえ

三傍線部の動詞の活用の種類を例にならつて記せ。

〔例〕下りラ行四段活用

[2点×4]

①丹後へつかはしける人は参りにたりや。 []

[]

(解答) [計30点]

一 ① たんご ② つぼね ③ みす

[2点×3]

二 ① イ ② イ ③ イ ④ ウ

[2点×4]

三 ① サ行四段活用 ② ガ行上二段活用

③ ガ行下二段活用 ④ カ行変格活用

[2点×4]

四 ① c ② d ③ d

[2点×3]

五 ウ

[2点×1]